

# 特別レポート●東京都市大学の高大接続改革

## 先駆的プログラムに接続し 入試に探究総合問題を導入

武蔵工業大学を前身とする東京都市大学（東京都世田谷区）は、2023年4月に8学部18学科体制に進化する。横浜キャンパスに文理融合情報系の「デザイン・データ科学部」を新設する等の大学改革を進める一方で、「探究」をキーワードとした進学イベントや入試改革にも取り組み、高大接続を一層深化させている。

図1 オープンミッション  
【探究プログラム】

事前課題(5月～6月)Web  
各学科から動画で提示されるミッション(課題)に取り組む。

探究ワーク(6月下旬)対面  
教員や学生からレクチャーをうけ、内容を掘り下げる。

自由研究(7月～)Web・対面  
成果発表に向けて、Webの個人ワーク、対面のグループワークを行う。

成果発表(8月上旬)対面  
成果発表を実施。教員から評価コメントをもらう。修了証明書を発行。

表されている。「初めて導入される入試ですから、逆にチャンスがあると思つてチャレンジしていただきたい」と菅沼部長は話す。

高校「探究」を支援するオープンミッション

今年から始まった高大接続型探究イベント「オープンミッション」が注目を浴びている。菅沼部長はこのイベントを始めた意図をこう説明する。

「高校は『探究』の実施方法について悩んでいると聞きます。本学は複数の高校と連携した取り組みの中で、高校ごとにカスタマイズしながら『探究』の学習支援のため教員を派遣していますが、これを広げていくにも限界があります。それでしたら、

### アウトプット型人材を 探究総合問題で受け入れ

東京都市大学は、2023年度入試で「探究総合問題」を導入する。これは、特定の教科・科目に限定されず、「思考力・判断力・表現力」を評価する総合的な問題であり、すべての教科がミックスされている一方で、従来の入試問題とは出題テイストが異なる。

理工学部（自然科学科を除く6学科）の入試のうち、すでに実施された総合型選抜と学校推薦型選抜（公募制）の他、2月4日（土）の一般選抜（前期理工系探究型）でも導入される。

導入の背景には、理工学部の「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラムがある。

入試センター部長の菅沼直治氏は「先駆的なプログラムにリンクした受験者層を受け入れるために作問した」と説明する。

文部科学省の「知識集約型社会を支える人材育成事業」にも採択された同プログラムは、2021年に理工学部3学科で始

まり、来年度からは自然科学科を除く6学科に拡大する。ゲームチェンジ時代といわれる現在の世の中をふまえ、分野を超えて価値をつくり出せる人材の育成を目指す。

通常のカリキュラムは教養・基礎科目から専門科目へと積み上げ方式になるが、「これを逆転させた」（菅沼部長）ことがカリキュラムの特徴だ。

例えば、「ひらめきづくり」という授業では、世の中の問題を解決する新たなサービスの形を考えて、発表する。

「これを授業の最初に行うことで、気づきやモチベーションが生まれます。ここから、自分に必要な科目を選んで学ぶという、より意識を高めたなかで学びのストーリーを描くことになります」と菅沼部長は言う。

このプログラムで求められるのは、「基礎学力をベースとして、科目を横断的に気づく力や発想力、そしてアウトプットできる力（菅沼部長）だ。インプット主体の学習では対応できない。実際に受講した学生からは、戸

高校が求めるプログラムを大学で用意して、高校生に来ていただいたほうが、高校の先生方の負担も減ると思います。大学にとっては、集中的なイベントを実施することで、『探究』に力を入れてる大学」ということを広くアピールできます。

プログラムは、5月～8月にかけて4つのステップで構成される（図1）。

最初に、大学のウェブサイトを通じて全学科からミッション（課題）が提示される。今年、「ドローンでイノベーションを起こそう！」「地球外に生命がいる惑星を探そう」「まちの『ならでは』を探究しよう」など、17のミッションが提示された。高校生は取り組みミッションを選んで参加登録を行い、事前課題回答用紙に記入する。

6月下旬、キャンパスで探究ワークを行い、それをふまえて最終発表に向けて研究を行う。

一方通行のオープンキャンパスでの模擬授業とは異なる。「第2ステップの探究ワークは、身一つでは参加できません。

このプログラムで求められるのは、「基礎学力をベースとして、科目を横断的に気づく力や発想力、そしてアウトプットできる力（菅沼部長）だ。インプット主体の学習では対応できない。実際に受講した学生からは、戸

課題回答を準備して集まってもらい、それをみんなの前で発表し、教員から適切なアドバイスをもらいます。もう一度練習直しをして最終発表を迎えることになりす」（菅沼部長）

7月からの自由研究の期間には、大学の図書館を自由に利用することができ。普段の大学の雰囲気を感じることができることも本プログラムの大きな特徴だ。

2022年は、案内期間が短かったにも関わらず、参加枠300名に対し約200名が集まった。来年度以降の参加者はさらに増えるの見込みがある。

首都圏だけでなく、北海道から沖縄まで全国各地の高校生が参加してくれた。入試センター課長の小澤亮賀氏は言う。

「高校生は、様々な課題に興味・関心を持っていて、探究に挑んでみたいという思いが実は強いのだと思います。探究の学習経験は必ず将来に生きます。本学では全学生が卒業研究に取り組みますが、そのスタイルは探究学習に似ているんですよ。高校生にはそういったことにも

惑いの声よりも「こういう学びをやりたいかった」という反応が多いという。

今回の探究総合問題の導入は、こうした新しい学びのスタイルや適性に沿った学生を受け入れるための挑戦だったのだ。

探究総合問題を作問するのは、プログラムを担当している教員だ。教員側から「このような問いを作りたい」という提案があり実現した。つまり、探究総合問題は、入試センター側と教員側の思いが一致して生まれたのである。

一般選抜（前期理工系探究型）では、探究総合問題だけではなく、共通テスト2科目（数学＋高得点1科目）と合わせて判定するため、必要以上に不安に感じる必要はないだろう。サンプル問題は大学ホームページで公



東京都市大学入試センター部長  
菅沼直治

**高校進路指導担当者対象  
大学&オープンミッション  
最新情報説明会**

日時 2022年12月15日(木)  
15:00～17:00

会場 東京都市大学 世田谷キャンパス  
(東急大井町線「尾山台駅」徒歩12分)

参加申し込み 2022年12月5日(月)まで

詳細はホームページを参照:  
<https://www.tcu.ac.jp>

気づいてもらいたいです」

オープンミッションは、あくまでも高校の探究学習の支援を目的としたものだが、修了証明書は総合型選抜の提出資料としても利用できる。

2023年度入試の総合型選抜の出願者438人中123人はオープンミッション参加者だった。なかには、課題に取り組んだ学科とは異なる学科に出願しているケースもあった。

オープンミッションは、「探究」の授業の一貫としてだけでなく、将来の学びの分野を考えるキャリア研究の貴重な機会にもなっているのだ。